

様式 C - 7 - 1

平成27年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号

1	4	6	0	3
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 奈良先端科学技術大学院大学
3. 研究種目名 新学術領域研究（研究領域提案型） 4. 研究期間 平成27年度～平成27年度
5. 課題番号

2	2	1	2	1	0	0	1
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 細胞シグナリング複合体によるシグナル検知・伝達・応答の構造的基礎

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
0 0 1 6 4 7 7 3	ハコシマ トシオ 箱嶋 敏雄	バイオサイエンス研究科	教授

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
1 0 3 2 2 7 5 2	マエナカ カツミ 前仲 勝実	北海道大学・薬学研究科（研究院）	教授

9. 研究実績の概要

平成22年度に発足した新学術領域研究「動物・植物細胞のシグナル検知と伝達の構造生物学」では、平成23年と25年には公募研究を加えて、種々の手法による構造生物学、タンパク質化学、生化学、細胞生物学の研究者の相互協力により、重要な細胞機能の制御に関わるシグナル伝達経路で形成される複合体（細胞シグナリング複合体）の三次元構造決定を通して、相互作用の特異性と分子機能の制御機構を原子分解能で解明してきた。本終了研究では、総括班が中心となって領域の研究成果をとりまとめるとともに、本領域の到達点を明確にすることで、それに立脚した更なる発展・展開の方向性を関連研究者と共有して、我が国の学術に寄与すると考えた。具体的には、成果を取りまとめた成果報告書の作成を行うとともに、領域の成果を外部に公表するシンポジウム等を学会との共催も視野に入れて開催した。

成果報告書の作成：本領域によって得られた研究成果、および学会・シンポジウムの開催記録、若手育成のための取り組み、更にはニュースレター（全53報）の抜粋をまとめた成果報告書を作成して、製本した（337ページ）。また、シンポジウムの内容をまとめたものを作成する。

事後評価の取りまとめの準備：領域の事後評価の準備をして、ヒヤリングを受けた。

シンポジウムの開催：本新学術領域研究において新たに得られた成果を広く社会に公表することを目的として、本領域の研究者が企画したシンポジウム「構造分子生物学・生化学の進展」（オーガナイザー：箱嶋敏雄・奈良先端大教授、前仲勝実・北大教授）をBMB2 015（12月3日神戸ポートピアホテル）で開催して、今後の構造細胞生物学の展開について活発な議論がなされた。

10. キーワード

(1) 構造生物学

(2) 生化学

(3) 細胞生物学

(4) 分子生物学

(5) 生物物理学

(6) タンパク質

(7) 相互作用

(8)

11. 現在までの進捗状況

(区分)

(理由)

27年度が最終年度であるため、記入しない。

12. 今後の研究の推進方策

(今後の推進方策)

27年度が最終年度であるため、記入しない。

13. 研究発表(平成27年度の研究成果)

(雑誌論文) 計(0)件/うち査読付論文 計(0)件/うち国際共著論文 計(0)件/うちオープンアクセス 計(0)件

著者名		論文標題				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)						
オープンアクセス						

(学会発表) 計(0)件/うち招待講演 計(0)件/うち国際学会 計(0)件

発表者名		発表標題	
学会等名	発表年月日	発表場所	

(図書) 計(0)件

著者名		出版社	
書名		発行年	総ページ数

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

(出願) 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

(取得) 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15. 科研費を使用して開催した国際研究集会

(国際研究集会) 計(0)件

国際研究集会名	開催年月日	開催場所

16. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

(1) 国際共同研究: -

17. 備考

--